

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成25年6月25日)

項 目	ページ
1 主要農産物の生産販売状況について	
	【生産振興課】 別紙
2 緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について	
	【畜産課】 1
	【食のみやこ推進課】 //
3 日野川水系の濁水について	
	【農地・水保全課】 別紙
4 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について	
	【農地・水保全課】 2
5 湖山池会議等の概要について	
	【水産課】 3
6 第3回境港まぐろ感謝祭について	
	【境港水産事務所】 4
7 「食のみやこ鳥取県」アンバサダー就任記者発表会について	
	【市場開拓課】 7
8 「食のみやこ鳥取県」地産地消推進プロジェクトについて	
	【食のみやこ推進課】 8

農 林 水 産 部

緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について

平成25年6月25日

農 林 水 産 部

(畜 産 課)

(食のみやこ推進課)

1 緊急雇用創出事業の県事業予備枠を活用して追加実施することとした事業費

(6月10日までに追加実施を決定した事業) 25,316千円

2 追加実施事業の内訳

事業名	本年度予算額 (うち新規雇用 人件費)	雇用創 出人数 (延べ)	①月額給料	事業内容	
			②雇用期間(予定)		
			③被雇用者の要件		
鳥取和牛販売 対策パワー アップ事業	14,553千円 (7,695千円)	2人	①240千円 ②H25年4月 ～H26年3月 ③首都圏や関西圏 での鳥取和牛のブ ランド化PRや販 路拡大ができる等	鳥取和牛と鳥取和牛オレイン55の ブランド化促進と定着のため、県内流 通業者に専任の者を雇用して、首都圏 や関西圏での販路拡大を図る。	
県産食材供給 システム構築 事業	10,763千円 (5,933千円)	3人	①2名：128千円 1名：158千円 ②H25年6月 ～H26年3月 ③学校給食施設等 への県産食材の供 給、県外店舗への県 産食材の供給・情報 発信ができる等	鳥取県産食材の県内外への円滑な供 給を促進するため、県内学校給食等へ の地元食材提供のためのコーディネー トや、県外小売店舗等への県産食材の PR・供給を図る事業を、県下全域の 食材を調達・販売する事業者へ委託す る。	
合 計	25,316千円 (13,628千円)	5人			

※この事業は「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用して実施する事業です。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	摘要
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	中山2期畑かん施設工事 (二本松1工区)	西伯郡 大山町 松河原 ~ 殿河内	株式会社 平井組 代表取締役 西沢 吉次	107,310,000円 (設計額 117,421,500円) 落札率91.4%	平成25年6月4日 ~ 平成26年3月10日	平成25年6月3日	【工事内容】 畑地かんがい施設工事 延長L=3,917m 管路工 硬質塩化ビニル管φ75~100mm L=3,894m タクスタイル鍍銀管φ100mm L=23m 給水栓工N=18箇所 加圧機建設N=1棟(コンクリートポンプ造り平屋24㎡) 加圧機設備1式(ポンプφ50.5kw×2台)	平成25年6月25日 農地・水保全課

湖山池会議等の概要について

平成25年6月25日
水産課、水・大気環境課、河川課

○湖山池将来ビジョンに基づき、平成24年3月から汽水湖化に着手しているが、湯水等による塩分濃度の上昇や産卵期を迎えたフナ等の大量斃死等への対応を図るため、県及び鳥取市の関係機関が諸課題を共通認識し、機動的に動くことを確認した。

1 湖山池会議（統轄監・鳥取市副市長トップ 平成25年6月7日（金）開催）

- (1) 塩分濃度の状況
 - ・将来ビジョンでは塩分濃度を2000～5000mg/lとしているが、6/5現在、7500 mg/l
 - ・5/23より新たな水門操作により、塩分濃度上昇を抑制する取組みに着手した。
- (2) 水門操作の状況
 - ・塩分濃度と溶存酸素(DO)の状況を監視しつつ、船通水門を段階的に閉じていく。
 - ・船通水門は、川底から10cmまでとしつつ、湖底のシジミ等が死滅する貧酸素状態にならないよう、よりきめ細やかな操作を実施する。
- (3) 池及び池周辺の生物の状況
 - ・フナの斃死については、死魚は速やかに回収し処分する。
 - ・産卵で河川へ遡上するフナについては、遡上する河川へ産卵床(人工水草)を設置して、産卵後、湖内に降下させる対策を行う。フナの塩分耐性は、今後研究を行う等の検討を行う。
 - ・カラスガイの保護については、生育が確認された「ため池」の泥のかき出し等を行ったり、稚貝の再生産する技術の習得等を行う。
- (4) 池周辺の家庭菜園等の状況
 - ・南風により塩分を含んだ湖水が飛散し、家庭菜園、植木等に被害を与えた潮風害については、チラシ等を作成し、周辺住民へ注意喚起を行う。併せて、塩分に強い作物への転作等を奨励する。
 - ・畑地の代替地等を希望する者に対して、その提案等ができるよう検討する。
- (5) 石がま漁の状況
 - ・石がまへヒシ、タニシ等が詰まり、魚道へのフジツボの付着する課題については、3月にジェットポンプでヒシ等の除去は行ったが、水中にある周辺の「かけだし」等の状況について、7月までに水中調査を行い、抜本的な対策を検討する。
- (6) その他
 - ・市民、県民等へより細やかな情報提供を行っていく。

2 湖山池チーム長会議（生活環境部次長ほか関係課長 平成25年6月12日（水）開催）

- (1) 斃死魚の回収体制
 - ・日曜日は回収していなかったが、今後は、日曜日にも必要があれば回収する。
- (2) 河川水確保のための協力要請
 - ・河川流量が少ないため、水田用水の取水制限は困難である。⇒会議後、6/13 福井川で、特に浅瀬となっている箇所の水深(水量)を確保するため土のうにより川幅を狭め、コイ、フナ等が遡上できるよう対応した。
- (3) フナ等の産卵場所等への対応
 - ・6/8 人工水草約40本設置し、産卵数約2000粒/本を確認した。
 - ・6/12 上記の効果により、防風ネット(1m×50m)を人工水草として福井川へ追加設置した。
 - ・6/20 湖山川(長柄川)河口付近に酸素供給装置を民間と協働して設置した。
(株式会社大昌エンジニアリングがデモ機を提供し、県農林水産部局が効果検証する。)
- (4) 水門の工夫による塩分濃度の抑制及び溶存酸素の確保
 - ・6/21 船通水門内に、濃い塩分の層を遮断するための土のうによる潮止め堰を設置した。
 - ・塩分濃度及び溶存酸素、シジミの生息状況等を引き続き、監視する。
- (5) 潮風害への対応
 - ・潮風害の防止を呼びかけるチラシを作成し周辺の全戸へ配布する。家庭菜園の栽培場所の選定や塩分に強い作物等を周知する。

第3回境港まぐる感謝祭について

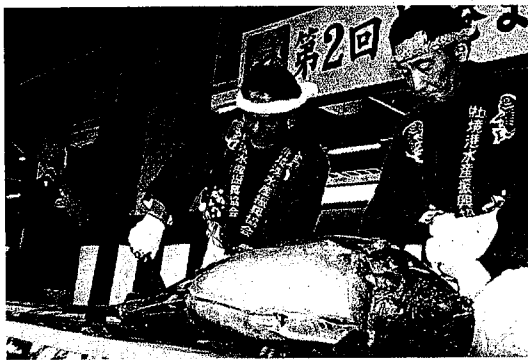
平成25年6月25日
境港水産事務所

境港産クロマグロのPR及び資源管理の取組などの情報を広く発信することを目的とし、昨年に引き続き境港天然本マグロPR推進協議会（会長 大谷和三：境港魚市場（株）社長）主催による「第3回境港まぐる感謝祭」が開催されます。

<境港まぐる感謝祭の概要>

秋の「水産まつり」を本祭とし、冬の「かに感謝祭」、夏の「まぐる感謝祭」を境港の水産三大祭と位置づけ、境港を代表する水産物の知名度向上と消費拡大を図る。

- ・ 日 時 平成25年7月7日（日）午前10時～午後2時
- ・ 場 所 県営境港水産物地方卸売市場2号上屋内（境港市昭和町9-7）
- ・ 内 容 マグロ解体ショー、無料ふるまい（刺身800食・マグロ汁800食）、内臓料理実演・解説、ブラスバンド演奏（境一中）、大漁太鼓演奏、水産バンド演奏、マグロPR展示、販売コーナー（切身・調理品）等
- ・ 主 催 境港天然本マグロPR推進協議会
- ・ 協 賛 （社）境港水産振興協会、山陰旋網漁業協同組合、水産物市場荷受協議会、境港鮮魚仲買協同組合、（協）境港水産物直売センター、境港商工会議所、境港商工会議所女性会、境港市観光協会、境港飲食店組合、境港金融会、境港市、鳥取県



昨年の状況（来場者数：約6,000人）

【境港産クロマグロに係る参考資料】

■初水揚げの状況

6月6日（木）、境漁港で昨年より4日遅いクロマグロの初水揚げがあった。初水揚げをしたのは、石川県の船団「第18輪島丸（輪島漁業生産組合）」で合計63.9トン、2,248本の水揚げとなった。漁場は北部日本海で、魚体は10～40kg台の小型魚が主体（平均28kg）だった。平均単価は前年を大きく下回り1,370円/kgであった。

水揚日 6月6日（前年：6月2日）
 水揚船団 第18輪島丸 石川県（前年：第28光洋丸 鳥取県）
 水揚量 63.9トン（前年：17.9トン）
 水揚本数 2,248本（前年：517本）
 体重 範囲12～49kg 平均28kg（前年：範囲24～51kg 平均34kg）
 単価 平均1,370円/kg（前年：2,214円/kg）

■これまでの水揚状況（6月18日現在）

期日	本船名	船籍	水揚量（トン）	金額（百万円）	平均単価（円/kg）
6月6日	第18輪島丸	石川	63.9	87.8	1,370
6月7日	第18輪島丸	石川	93.9	79.0	841
6月9日	第21たいよう丸	東京	43.5	45.7	1,050
6月11日	第21たいよう丸	東京	27.9	34.3	1,227
6月12日	第1光洋丸	鳥取	6.5	8.7	1,330
6月12日	第18輪島丸	石川	22.7	32.5	1,436
6月18日	第3蛸島丸	石川	59.3	101.4	1,711
合計			317.7	389.4	1,226

■太平洋クロマグロ資源管理措置及び昨年漁獲実績（大中型まき網漁業）

	未成魚（30kg未満）	成魚（30kg以上）
対象海域	九州西・日本海	日本海
対象漁期	10月～翌年9月	6月～8月
漁獲上限	4,500トン/年	2,000トン/年
H24漁獲実績	3,234トン	702トン

※未成魚については、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）の保存管理措置に基づき、農林水産省が指針を作成し、漁業者が漁獲上限を設定している。成魚については、WCPFCの措置に含まれていないが、自主的措置として、農林水産省が指針を作成し、漁業者が漁獲上限を設定している。

■今漁期の見通し（水産試験場）

体重20～30kg（3歳魚）サイズは、資源が多いと考えられることから漁獲が見込まれる。
 （資源が多いと考えられる理由：H24に東部太平洋沖（アメリカ）で2歳魚が多く漁獲されたため。）

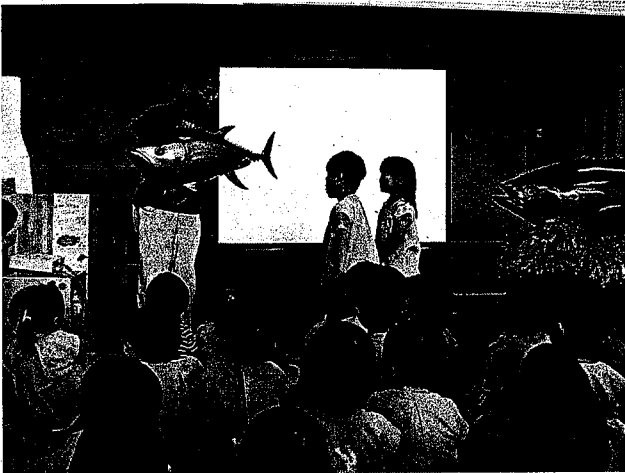
境漁港における初水揚げの状況（6月6日）及びPR活動



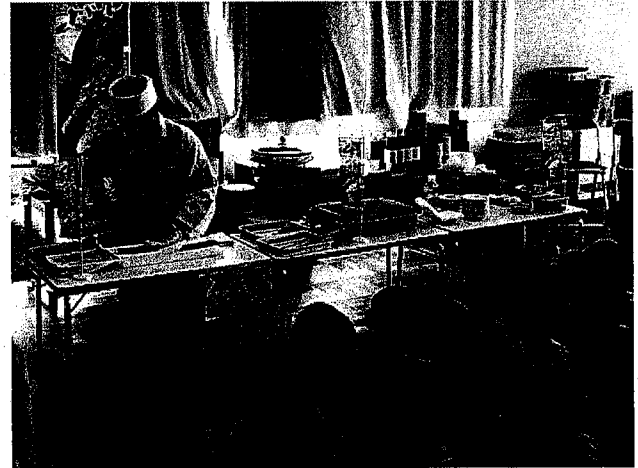
初水揚げは石川県の第18輪島丸船団
運搬船：第17輪島丸



初セリの様子
漁獲サイズは12~49kg 水揚本数2,248本



境港市内の12ヶ所の保育園等にて
食育活動「マグロ集会」を実施（主催：境港市）



「マグロ集会」では、飲食店組合による
マグロ調理実演後、園児たちが試食



鳥取県観光連盟のアテンドによる雑誌取材
観光大使によるPR、仲卸店舗にて

「食のみやこ鳥取県」アンバサダー就任記者発表会について

平成26年6月25日
市場開拓課

「食のみやこ鳥取県」の知名度を向上させるため、リーディングブランドとなることが期待される「梨新品種（なつひめ、新甘泉）」、「鳥取和牛オレイン55」をテーマに発信力の高い首都圏で戦略的なPRを展開する首都圏メディアキャンペーンを展開します。

このキャンペーンにおいて「食のみやこ鳥取県」アンバサダー（大使）として、タレントの石田純一・東尾理子夫妻に就任いただき、芸能界きってのおしどり夫婦である二人ならではの視点で家族や大切な人とおいしいものを味わう幸せ、楽しさを伝えていただきます。

キャンペーンの開始に先立ち、「食のみやこ鳥取県」アンバサダー就任記者発表会を開催します。

- 1 日時 平成25年6月28日（金） 15:30～
- 2 会場 ザ・ランドマークスクエアトーキョー（東京都港区高輪）
- 3 内容
 - ・主催者挨拶
 - ・各ブランド説明（梨新品種、鳥取和牛オレイン55）
 - ・「食のみやこ鳥取県」アンバサダー就任式
 - ・平井知事とアンバサダーのトークセッション
 - ・フォトセッション 等
 - ・参加予定マスコミ（新聞、テレビ、雑誌等 約50社）
- 4 主催 鳥取県
- 5 今後の主な企画内容（詳細は調整中）

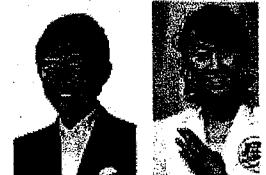
【企画主旨】

- ・イベント実施を軸にメディア誘致を図り、「梨新品種（なつひめ、新甘泉）」「オレイン55」をリーディングブランドと位置づけ、「食のみやこ鳥取県」の知名度を向上させる。
 - ・ターゲットとの共感を生み出し、情報発信力のある夫婦タレント（石田純一・東尾理子夫妻）をアンバサダーとして起用する。
 - ・また、メディアミーティングやブロガーミーティングを実施し、継続的な情報を露出する。
- (1) 梨新品種（コミュニケーションメッセージ＝「愛情フルーツ Love Pear」）
 - ・JRとタイアップした新甘泉と新幹線のコラボレーション
 - ・スイーツのプロであるパティシエによるオリジナルレシピの開発
 - ・新甘泉、なつひめを中心とする鳥取県食材を使用したクッキングスクールの開催
 - (2) 鳥取和牛オレイン55（コミュニケーションメッセージ＝「旨味とキレのオレイン和牛」）
 - ・著名シェフによる「鳥取和牛オレイン55+付合わせ」のオリジナルレシピの開発
 - ・全国紙、主要女性誌を中心としたメディアミーティング（定例会）を開催
 - ・海外メディアへの情報発信のために外国人記者クラブでフードフェアを開催
 - ・ANAとコラボしたプレゼント企画

「食のみやこ」鳥取

アンバサダー就任記者発表会

石田純一さん、東尾理子さん夫妻のアンバサダー就任発表会を開催し、平井知事と石田純一さん、東尾理子さんのトークショーを行います。プレスや招聘ブロガーには、各ブランドの戦略的なポジショニングや、開発秘話、キャンペーンの告知などをしっかりと伝え、深い記事を書かせる情報提供を行います。



「食のみやこ鳥取県」地産地消推進プロジェクトについて

～地産地消キャンペーン（第3弾）及び食育イベントについて～

平成25年6月25日

食のみやこ推進課

県内全域にわたる地産地消キャンペーン(第3弾)を展開することで、県内の農林水産物の魅力を県民の皆様にも再認識していただき、内食中食の両面で地産地消の推進を図る。今回は、連携企業を拡大するとともに、新たに小学生を対象とした食育イベントを実施する。

1 実施内容

(1) プロジェクトの全体構成（連携企業を拡大：6企業→12企業）

J Aグループ鳥取、鳥取県漁業協業同組合、鳥取県地方青果市場連合会、味の素(株)、オタフクソース(株)、(株)ミツカン、(株)キューピー、(株)カゴメ、ハウス食品(株)、ヤマキ(株)、日清オイリオグループ(株)、日本製粉(株) ※下線部は新規の連携企業

(2) メインとなる県内農林水産物

トマト・ミニトマト、ピーマン、ねばりっこ、大根、白ねぎ、豚肉、岩ガキ、白イカ、アジ、アゴ ※下線部は新規の食材

(3) シンボルとなるメニューの開発

味の素(株) 他が上記食材をふんだんに使用したメニュー4種を開発したほか、知事夫人がメニュー1種を考案した。

- ①鳥取岩ガキとトマトのごちそうリゾット（知事夫人考案）
- ②とっとり焼き（ねばりっこお好み焼き）
- ③鳥取県産豚バラ肉とねばりっこ、大根の釜飯
- ④白イカと白ねぎの焼きそば他

(4) キャンペーン展開

【時期】平成25年7月15日（月）～8月14日（水）

【内食】県内量販店90店舗（10企業）でメニュー提案するとともに、各売場にポスター、ポップ、メニューリーフを設置し、鳥取県産食材と関連商品を販売する。

【中食】量販店（4店舗）の惣菜として「とっとり焼き（ねばりっこお好み焼き）」を提供する。

(5) 食育イベントの実施 <キャンペーン キック オフ イベント>

【時期】平成25年7月1日（月）午後2時から3時10分まで

【場所】鳥取市立明徳小学校体育館（鳥取市行徳201番地3）

【内容】鳥取市立明徳小学校の小学5、6年生及び保護者を対象に食育授業を実施する。

① J A鳥取いなば及び鳥取県漁協による食育授業

J A鳥取いなば：「らっきょうの話」、鳥取県漁協：「白イカの話」

② メーカーによる食育授業

「調味料ができるまで」の話と県産食材を使ったメニューの試食



2 期待される効果

- (1) 連携企業の拡大によって一層充実した内容で地産地消キャンペーンを展開するとともに、県産農林水産物の魅力を県内外に情報発信する。
- (2) 新たに食育イベントを実施することで、鳥取県の未来を担う子どもたちに県産食材の魅力や生産地について知識を深めていただく。
- (3) 県主導では実現できない連携企画であり、ナショナルブランド（味の素(株) 他）によるポスター・チラシ掲出等で県産品をPRすることで、県民の皆さんへの高い宣伝効果を期待する。